

赤星

月刊

1月2006年 No.51 (通巻393号)

本号400円
年間購読料 1部3000円 (送料別)
(送料) 密封1000円 開封800円

THE SEKISEI (RED STAR/ROTE STERN)

編集 共産主義者同盟 (DER BUND DER KOMMUNISTEN)

発行所 蜂起社 東京都江東区大島3-9-25 / TEL 03-5626-8262

発行人 南 安明 <振替> 00120-2-1512 蜂起社・南安明

紙面案内

- ②-⑤ 反帝・反グローバリズムと国際主義
持たざる者の連帯が世界を変える
- ⑥ 共産同第3回総会報告
- ⑦ 持たざる者行動-釜山・香港/山谷
- ⑧ 三里塚年頭アピール/沖縄/反彈圧

お知らせ 次号は2月中旬発行です。

NEW INTERNATIONALISM

Anti-Imperialism! Anti-Globalism!



全世界の「持たざる者」、パレスチナ・韓国
労働者民衆の越境する国際連帯で
新しい国際主義を切り拓け



共産主義者同盟 (蜂起派)

リズムと国際主義の旗



12.13香港WTO粉砕デモに立ち上がった
韓国の労働者・農民（1千数百人の闘争団）

プロレタリア解放への希望と理想と情熱 に燃える「赤い星」たれ!

共産同(蜂起派) 10大スローガン

- ①反帝・反グローバリズムと新しい国際主義の旗の下、全世界のプロレタリア、団結せよ!
- ②「持たざる者」の越境する国際連帯が世界を変えろ!
- ③パレスチナ・韓国・全世界のプロレタリアの怒り・抵抗・連帯が国際主義を切り拓く!
- ④帝帝の参戦国化・改憲を阻止しよう!
- ⑤イラク派兵・占領を止めさせよう!
- ⑥パレスチナに自由をノイストラエルの占領を終わらせよう!
- ⑦日韓の労働者民衆の国境を越えた連帯でFTAを粉砕しよう!
- ⑧山谷を拠点に「持たざる者」一全の下層労働者・失業者・野宿者と共に失業・貧困・排除への怒りを、公正・平等・連帯を求める大衆行動へ!
- ⑨沖縄民衆と共に米軍基地即時撤去・海上新基地建設阻止/日米安保粉砕
- ⑩三里塚反対同盟と共に成田空港廃港・暫定滑走路延伸阻止へ!

再び前へ!

帝国主義を打倒し全世界のプロレタリアの解放を目指す共産主義運動は、スターリン主義によって歪められた東欧・旧ソ連の「疑似社会主義」体制(アンシャン・レジーム)の崩壊を歴史的転機として、再生への「試練の途上」にある。言換える、それは、共産主義(あるいはマルクス主義・レーニン主義)に対する懐疑、不信、失望が深い影を落とした「困難」に直面し、過去の失敗や過ち、「負の歴史」から教訓を学ばねばならぬという「苦悩」を抱えている時代、「困難と苦悩」によって深く特徴づけられている時代に立たされていると言えらる。苦境の中で実践上の壁から教訓を学ぶと同時にプロレタリア解放・共産主義の思想的な原点に立ち返る。

新しい国際主義への過渡期

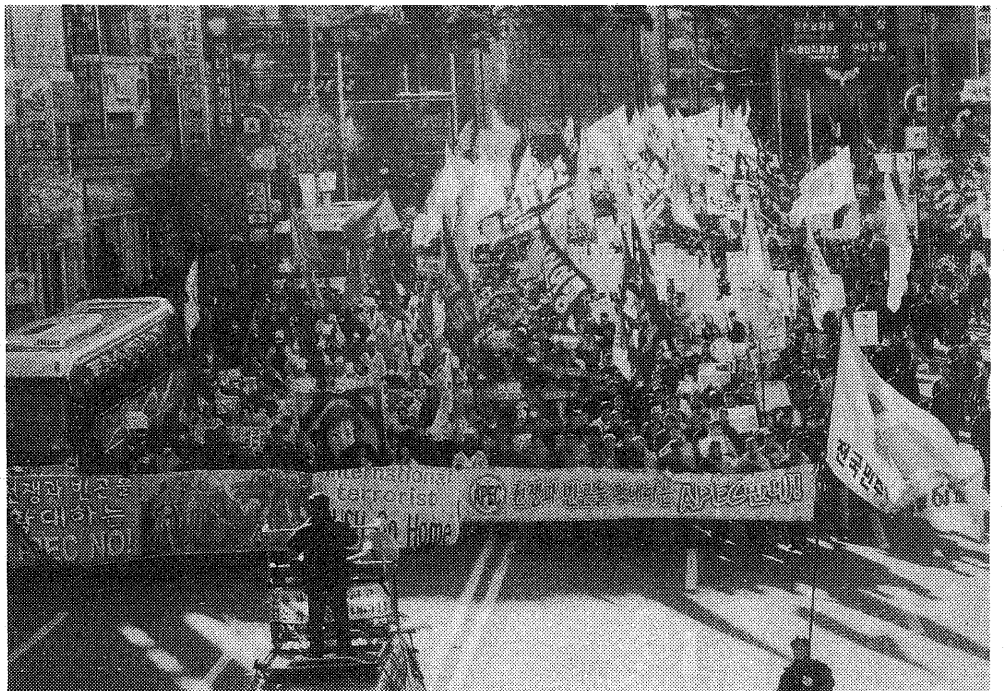
「再び前へ」を進める。数多くの闘争や活動家が、団結の不在によって孤立し、混迷の中で挫折してきたことを確かな。そして、多くの闘いが、断絶によって、口からの出発を余儀なくされてきた。我々は、こうした闘いの歴史の「断絶の連鎖」を断ち切り、自ら新衆の怒りと不信を買った「労働者国家」は、1989年-1991年の東欧・旧ソ連の「疑似社会主義」体制(アンシャン・レジーム)の最後の崩壊を招き自ら滅んだ。

今日、我々は、国際的次元において、反グローバリズムの最後の崩壊を招き自ら滅んだ。一方、戦後世界の反帝国主義闘争の旗手となった民族解放闘争ではあるが、中国、キューバ、アルジェリア等で植民地からの脱却と独立を勝ち取りながら、権力奪取後、その抱えた歴史的・経済的な困難や制約を克服し、それを端的に示した。越境する「持たざる者」の「怒り・抵抗・連帯」によって「闘いの中に生きていくことを全身で感じる」と(韓国の労働歌「鉄の労働者」の一節)さえできれば、プロレタリア解放への「希望と理想と情熱」の火を燃え上げられ、世界は変えられるのだ。

新しい国際主義への過渡期

ロシア革命以降の過渡期世界における国際共産主義運動を総括するその核心は何かと言ふと、それは、一言で表現するとプロレタリアの「国際主義の敗北」である。過渡期世界のプロレタリア革命は、スターリン主義に歪められ挫折を余儀なくされた。「ナショナル・ボルシェヴィズム」——民族主義的に変質した共産主義——が国際共産主義運動の権柄に転化し、「プロレタリア国際主義」は投げ捨てられるか口先だけのものに留まらざるを得なかった。労働者民衆の怒りと不信を買った「労働者国家」は、1989年-1991年の東欧・旧ソ連の「疑似社会主義」体制(アンシャン・レジーム)の多くの展望を喪失、中にはマルクス主義を放棄し環境問題などをテロに社会民主主義との融合(「赤と緑」の融合)によって潮流に乗って変質していくものも現れた。

掲げよ!反帝・反グローバ



11.18釜山APEC粉砕の集会と3万人のデモ
(左) 韓国民民主労総の集会、(右) 労働者・農民のデモ

新しい国際主義を切り拓く

「持たざる者」の越境する抵抗と国際連帯

マルクスが「アイルランド問題」で示し、またレーニンが「ブルジョア問題」で示したように、被抑圧民族の独立・解放が、支配民族に属する労働者階級の解放の前提であるという立場は、あくまでもナショナリズムを克服し国際主義（インターナショナルイズム）に基いた団結を形成するためである。

「持たざる者」の国際連帯で反グローバリズム運動へ！
現代の帝国主義の世界支配システムであるグローバリゼーション—多国籍化したグローバル資本—に対する労働者階級の「カウター・パワー」は、どのような主体・担い手によって、またどのような行動を、何処に生み出すことができるのだろうか。このことが反帝闘争—プロレタリア解放運動—共産主義運動を再生するために、避けて通れない「問い」なのである。こうした課題に明確に回答できないばかりか、問題意識さえ欠落させているのが、日本の左翼の現状なのである。世界を席巻する反グローバリズム運動のうねりから取り残されているという自らの「立ち遅れ」をグローバルなコンテキスト（文脈）で相対化し、自覚できないがゆえに、「持たざる者」の国際連帯行動が、新しい国際主義の展望を切り拓き、ラディカルでインターナショナルな世界の変革を可能にしているという意義を理解できないのであろう。

感づけられてきたような古いタイプの革命モデルと、明らかに異なる要素・スタイルを持っている。何よりも古い運動モデルとの共通点よりも相違点が際立っているのが特徴だ。この意味で、前例を踏襲したり模倣しない、モデルのない新しいタイプの運動を創造しようのである。

「持たざる者」を切り拓く（越境する）連帯を展開してきたのである。この運動は、これまでマルクスやレーニンの言葉によって権威づけられてきたような旧と連帯できず無関心である労働運動に、はたして社会を変革する力が宿るだろう。先進国でもどこもミドルクラスを中心にした階級協調派の労働組合が多数派になっていて、アンダークラスとの連帯志向する階級闘争派（ラディカルな左翼）は少数派であることを余儀なくされている。

だが、いまや労働運動は、「持たざる者」と連帯し「失業・貧困・社会的排除」と闘うことなしに何も築けない。そういう時代を迎えているのであり、労働運動自身が変わらなければならぬという意識に目覚めることが求められているのだ。そうしなければ、自分たちの運動の偏狭さに気が付かないまま、反グローバリズムは、からっぽな口先（スローガン）だけのものにとどまるだろう。

「戦争と革命の世紀」と形容された20世紀は、「ナショナリズムの世紀」でもあった。新しい世紀、21世紀の世界革命の展望は、それゆえ「プロレタリア国際主義」に基づく反帝国主義闘争を再生することであり、それは、「持たざる者」の越境する国際連帯をモーメント（拠り所・契機）に、反帝・反グローバリズムと新しい国際主義の旗の下に団結して闘うことによってこそ切り拓かれる。「旧いナショナリズムの世紀」から「新しいインターナショナルイズムの世紀」へのまさに「過渡期」にいま我々は立っているのである。

今日、大きなうねりとなっている反グローバリズム運動は、89-91年の東欧—旧ソ連の「疑似社会主義」—スターリン主義体制の崩壊にもかかわらず—否、まさに、それゆえに—、新しいタイプの大衆行動として出現し「国境を越えた（越境する）連帯」を展開してきたのである。この運動は、これまでマルクスやレーニンの言葉によって権威づけられてきたような旧と連帯できず無関心である労働運動に、はたして社会を

「持たざる者」の国際連帯は、「新しい」社会連帯であり、「新しい」国際主義を創り出す。

「持たざる者」を切り拓く（越境する）連帯は、「新しい」社会連帯であり、「新しい」国際主義を創り出す。

競争と排除の格差社会か、公正と平等と連帯の社会か、という変革のビジョンと、失業と貧困と排除に対するレジスタンスを組織する、というグローバリズムとの対抗戦を明確にした労働運動が、今ほど求められている時はない。

「持たざる者」の国際連帯は、「新しい」社会連帯であり、「新しい」国際主義を創り出す。

「持たざる者」を切り拓く（越境する）連帯は、「新しい」社会連帯であり、「新しい」国際主義を創り出す。

「持たざる者」を切り拓く（越境する）連帯は、「新しい」社会連帯であり、「新しい」国際主義を創り出す。

「持たざる者」を切り拓く（越境する）連帯は、「新しい」社会連帯であり、「新しい」国際主義を創り出す。

「持たざる者」を切り拓く（越境する）連帯は、「新しい」社会連帯であり、「新しい」国際主義を創り出す。

「持たざる者」を切り拓く（越境する）連帯は、「新しい」社会連帯であり、「新しい」国際主義を創り出す。

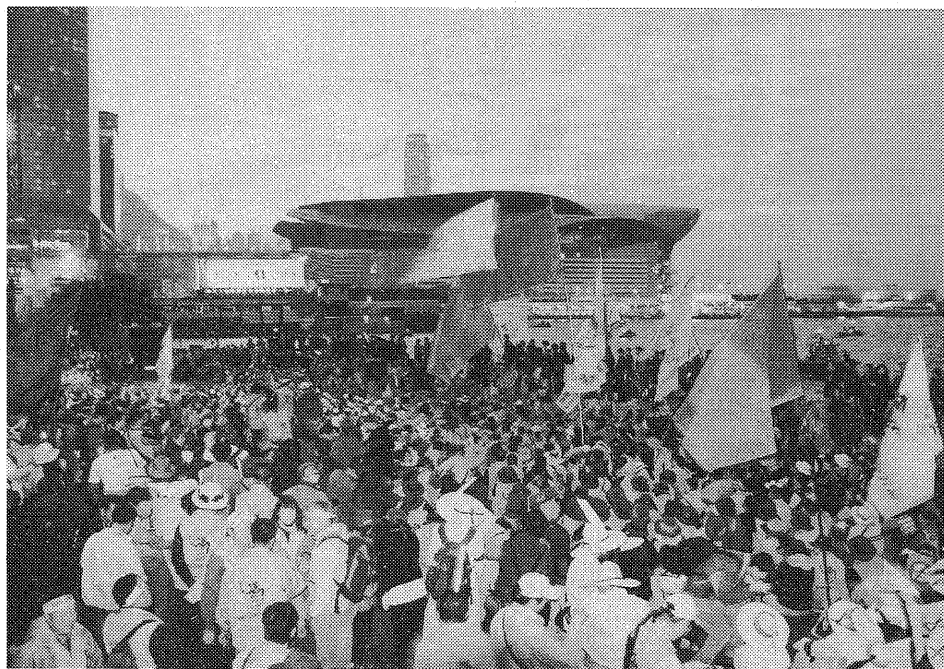
「持たざる者」を切り拓く（越境する）連帯は、「新しい」社会連帯であり、「新しい」国際主義を創り出す。

「持たざる者」を切り拓く（越境する）連帯は、「新しい」社会連帯であり、「新しい」国際主義を創り出す。

「持たざる者」を切り拓く（越境する）連帯は、「新しい」社会連帯であり、「新しい」国際主義を創り出す。

「持たざる者」を切り拓く（越境する）連帯は、「新しい」社会連帯であり、「新しい」国際主義を創り出す。

る連帯が世界を変える!



12.14香港WTO粉砕闘争
(左)WTO会場前での抗議集会、(右)デモに立ち上がる韓国の農民たち

参戦国化—改憲阻止へ!

「持たざる者」は国境を越えて連帯する!

新たな変革主体
「持たざる者」

「持たざる者」の越境する国際連帯は、「新しい国際主義(インターナショナルイズム)」を創造する。世界をラディカルに変革する。「持たざる者」は、グローバル化による新たな変革主体を想定する実践的な階級概念として、「失業と貧困と排除」が集中する「現代社会の最下層」である。「持たざる者」を創造することは「潜在的な集団闘争のため」に現存する条件を見つけて、さらさらの条件を政治的提案として表現すること(アントニオ・ネグリの「マイケル・ハート著『マルチチュード』NHKブックス)にもなる。

「持たざる者」の越境する国際連帯は、「新しい国際主義(インターナショナルイズム)」を創造する。世界をラディカルに変革する。「持たざる者」は、グローバル化による新たな変革主体を想定する実践的な階級概念として、「失業と貧困と排除」が集中する「現代社会の最下層」である。「持たざる者」を創造することは「潜在的な集団闘争のため」に現存する条件を見つけて、さらさらの条件を政治的提案として表現すること(アントニオ・ネグリの「マイケル・ハート著『マルチチュード』NHKブックス)にもなる。

「持たざる者」の越境する国際連帯は、「新しい国際主義(インターナショナルイズム)」を創造する。世界をラディカルに変革する。「持たざる者」は、グローバル化による新たな変革主体を想定する実践的な階級概念として、「失業と貧困と排除」が集中する「現代社会の最下層」である。「持たざる者」を創造することは「潜在的な集団闘争のため」に現存する条件を見つけて、さらさらの条件を政治的提案として表現すること(アントニオ・ネグリの「マイケル・ハート著『マルチチュード』NHKブックス)にもなる。

「持たざる者」の越境する国際連帯は、「新しい国際主義(インターナショナルイズム)」を創造する。世界をラディカルに変革する。「持たざる者」は、グローバル化による新たな変革主体を想定する実践的な階級概念として、「失業と貧困と排除」が集中する「現代社会の最下層」である。「持たざる者」を創造することは「潜在的な集団闘争のため」に現存する条件を見つけて、さらさらの条件を政治的提案として表現すること(アントニオ・ネグリの「マイケル・ハート著『マルチチュード』NHKブックス)にもなる。

第1インターの労働組合論

1866年、第1インターナショナル(国際労働者協会)の創設のためにマルクスが提起した「労働組合の目的と役割についての指示」(大会決議として「指示」(大会決議として「指示」)は、現代の帝国主義・グローバリズムとの闘争という今日のコンテキスト(文脈)においても、「原点」として再び立ち返るべき「労働運動のポリシー」が明確に述べられている。(註)

この「指示」には、労働組合は、①賃金奴隷制の下資本の軛によって虐げられた「持たざる者」、②現代社会の最下層であるプロレタリア(「共産党宣言」)

「持たざる者」の越境する国際連帯は、「新しい国際主義(インターナショナルイズム)」を創造する。世界をラディカルに変革する。「持たざる者」は、グローバル化による新たな変革主体を想定する実践的な階級概念として、「失業と貧困と排除」が集中する「現代社会の最下層」である。「持たざる者」を創造することは「潜在的な集団闘争のため」に現存する条件を見つけて、さらさらの条件を政治的提案として表現すること(アントニオ・ネグリの「マイケル・ハート著『マルチチュード』NHKブックス)にもなる。

「持たざる者」の越境する国際連帯は、「新しい国際主義(インターナショナルイズム)」を創造する。世界をラディカルに変革する。「持たざる者」は、グローバル化による新たな変革主体を想定する実践的な階級概念として、「失業と貧困と排除」が集中する「現代社会の最下層」である。「持たざる者」を創造することは「潜在的な集団闘争のため」に現存する条件を見つけて、さらさらの条件を政治的提案として表現すること(アントニオ・ネグリの「マイケル・ハート著『マルチチュード』NHKブックス)にもなる。

「持たざる者」の越境する国際連帯は、「新しい国際主義(インターナショナルイズム)」を創造する。世界をラディカルに変革する。「持たざる者」は、グローバル化による新たな変革主体を想定する実践的な階級概念として、「失業と貧困と排除」が集中する「現代社会の最下層」である。「持たざる者」を創造することは「潜在的な集団闘争のため」に現存する条件を見つけて、さらさらの条件を政治的提案として表現すること(アントニオ・ネグリの「マイケル・ハート著『マルチチュード』NHKブックス)にもなる。

「持たざる者」の越境する国際連帯は、「新しい国際主義(インターナショナルイズム)」を創造する。世界をラディカルに変革する。「持たざる者」は、グローバル化による新たな変革主体を想定する実践的な階級概念として、「失業と貧困と排除」が集中する「現代社会の最下層」である。「持たざる者」を創造することは「潜在的な集団闘争のため」に現存する条件を見つけて、さらさらの条件を政治的提案として表現すること(アントニオ・ネグリの「マイケル・ハート著『マルチチュード』NHKブックス)にもなる。

「持たざる者」の越境する国際連帯は、「新しい国際主義(インターナショナルイズム)」を創造する。世界をラディカルに変革する。「持たざる者」は、グローバル化による新たな変革主体を想定する実践的な階級概念として、「失業と貧困と排除」が集中する「現代社会の最下層」である。「持たざる者」を創造することは「潜在的な集団闘争のため」に現存する条件を見つけて、さらさらの条件を政治的提案として表現すること(アントニオ・ネグリの「マイケル・ハート著『マルチチュード』NHKブックス)にもなる。

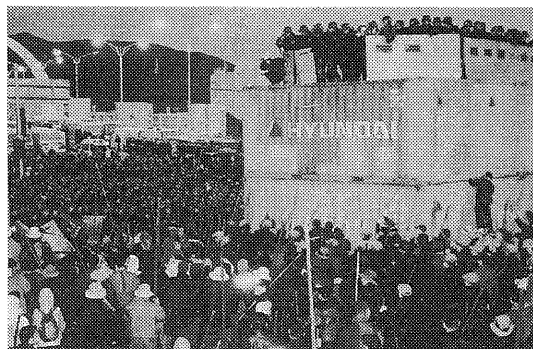
「持たざる者」の越境する国際連帯は、「新しい国際主義(インターナショナルイズム)」を創造する。世界をラディカルに変革する。「持たざる者」は、グローバル化による新たな変革主体を想定する実践的な階級概念として、「失業と貧困と排除」が集中する「現代社会の最下層」である。「持たざる者」を創造することは「潜在的な集団闘争のため」に現存する条件を見つけて、さらさらの条件を政治的提案として表現すること(アントニオ・ネグリの「マイケル・ハート著『マルチチュード』NHKブックス)にもなる。

「持たざる者」の越境する国際連帯は、「新しい国際主義(インターナショナルイズム)」を創造する。世界をラディカルに変革する。「持たざる者」は、グローバル化による新たな変革主体を想定する実践的な階級概念として、「失業と貧困と排除」が集中する「現代社会の最下層」である。「持たざる者」を創造することは「潜在的な集団闘争のため」に現存する条件を見つけて、さらさらの条件を政治的提案として表現すること(アントニオ・ネグリの「マイケル・ハート著『マルチチュード』NHKブックス)にもなる。

「持たざる者」の越境する国際連帯は、「新しい国際主義(インターナショナルイズム)」を創造する。世界をラディカルに変革する。「持たざる者」は、グローバル化による新たな変革主体を想定する実践的な階級概念として、「失業と貧困と排除」が集中する「現代社会の最下層」である。「持たざる者」を創造することは「潜在的な集団闘争のため」に現存する条件を見つけて、さらさらの条件を政治的提案として表現すること(アントニオ・ネグリの「マイケル・ハート著『マルチチュード』NHKブックス)にもなる。

「持たざる者」の越境する国際連帯は、「新しい国際主義(インターナショナルイズム)」を創造する。世界をラディカルに変革する。「持たざる者」は、グローバル化による新たな変革主体を想定する実践的な階級概念として、「失業と貧困と排除」が集中する「現代社会の最下層」である。「持たざる者」を創造することは「潜在的な集団闘争のため」に現存する条件を見つけて、さらさらの条件を政治的提案として表現すること(アントニオ・ネグリの「マイケル・ハート著『マルチチュード』NHKブックス)にもなる。

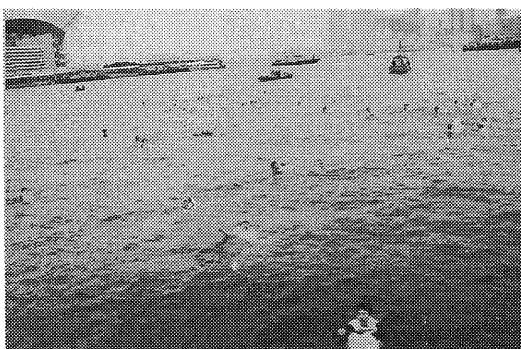
「持たざる者」の越境す



(左上) 11.18釜山APEC粉砕闘争
(左下) 12.13香港WTO粉砕闘争



(中上) 仏のジョゼ・ボベ
(中下) WTO抗議行動



(右上) 12.13海から反WTO
(右下) 12.14韓国農民デモ

パレスチナ・韓国 - 全世界の民衆の 怒り・抵抗・連帯が世界を変える!

「労働組合は、資本に
対する局地的な、当面の
闘争に余りにも没頭しき
つていて、賃金奴隷制を
ものに反対して行動す
る自分の力をまた十分に
理解していない。このた
め、労働組合は、一般
な社会運動や政治運動か
ら余りにも遠ざかってい
た。だが、最近になって
労働組合は、自分の偉大
な歴史的使命にいくらか
目ざめつつあるようにみ
える。」

「いま労働組合は、
その当初の目的以外に、
労働者階級の完全な解放
という広大な目的のため
に、労働者階級の組織化
の中心として意識的に行
動することを学ばなければ
ならない。労働組合
は、この方向を目指すあ
らゆる社会運動と政治運
動を支援しなければなら
ない。自ら全労働者階級
の戦士、代表者をもって
自認し、そうしたものと
して行動している労働組
合は、非組合員を組合に
参加させることを怠るこ
とができない。労働組合
は、異常に不利な環境の
ために無力化されている
農業労働者のような、賃
金の最も低い業種の労働
者の利益を細心にはから
なければならぬ。労働
組合の努力は狭く、利己
的なものでは決してな
く、踏みじられた幾百
万の民衆の解放を目標と
するものだとすること
を、一般の世人に納得さ
せなければならぬ。」

(マルクス・エンゲルス
全集第16巻、「個々の問
題についての暫定中央評
議会代議員への指示」、
マルクス、1866年8
月末執筆)

「抵抗」は、単に反対す
る行動と立場を意味するだ
けではなく、同時に協働と
連帯を生み出す闘いであ
らなければならない。
そして「連帯」は、失業
・貧困・排除など社会的不
公正や資本の軛そのもの
に対する怒り——この怒りは
負わされた苦しみがいかに
それだけ強くなる——階
級意識、闘志を同じくす
ることによって形成される。
しかも、それは、人を搾取
し抑圧し人々との関係を
バラバラに引き裂き分断し
て競争に駆り立てている既
存の秩序と社会の仕組みを
覆すことなしには、決して
成り立たない。それゆえ
「公正で平等で連帯に基づ
いた社会に人々との関
係、現実世界を根柢からつ
くり変えるために、そのラ
ディカル(根本的)な変革
の礎(インフラ)となる
「別の新しいもの」の萌芽
(コミュニケーションの関
係)を育むこと、言い換えれば
旧来のナショナルな、ラ
イムを乗り越えると同時に
国境を越えたインターナシ
ヨナルな連帯を具体的な美
実践・大衆行動によって創
り出すことはならない。

右翼、とりわけ新自由主
義政策の担い手は、本来的
に人間はエゴイステック
(利己的)で権威を好み競
争があるから社会は進歩す
ると考えている。だから真
に「公正で平等な」社会を
求めるという価値観や理想
に対しては認めようとしな
い。そればかりかグローバ
リゼーションによる貧富の
格差拡大という深刻な矛盾

をなおい隠し人々をミスリ
ードするために、「テロの
脅威」や「スケア・ゴ
ト」をつくり出す。右翼に
とって「もはや人間は搾取
の対象でなくなつた。
いま人間は排除の対象と
なった」(仏の作家ヴィ
イアヌ・フォレストル)
のだ。

こうした現実に対して、
「世界の至る所で、怒りに
燃えたプロレタリアが反抗
し始めている」。まさに、
「持たざる者」の国際連
帯をモメントにして、反
グローバリズムの火を燃え
上がらせようとしているの
が「新しい国際主義」を担
うラディカルな左翼なので
ある。

ラディカルな左翼は、た
とえ絶えめ苦闘の末に稀
にしか美を結ぶことがない
と分かっていても、人間は
本来、力を合わせ協働し連
帯して社会を変えることが
でき、自らを変革し解放す
ることができ、世界は
人々の自由と解放を求める
意志と闘いによって変える
ことができる。そういう社
会変革の可能性・根底性
(ラディカルイズム)と国際
性(インターナショナル
イズム)に希望を持っている。
こうした「希望と理想と情
熱の火を絶やさず、命あ
る限り怒り、抵抗し、連帯
して、プロレタリア解放の
闘いに生きること、これ
こそ共産主義者の歴史的使
命と言えよう。どんな困難があ
っても諦める必要はない。
「どのような試練があろう
と、未来は我々のものでは
ない(レーニン)。

(6面から続く)

支配者は、国家権力に反
逆しグローバリズムに挑戦
してこる者、その怒りのレ
ジスタンスを抑え込むため
に、各種の国際機関(WT
OやIMF、世界銀行な
ど)を作り全く無駄な会議
の開催に多大な努力と金を
浪費している。メディアは
そのような彼らの愚行に華
美な装飾をほどこし世論を
欺くことに、一役買ってい
る。彼らの振る舞いがまる
で「人類の繁栄と進歩」に
寄与しているかのよう。
何という偽善と虚構のセレ
モニだろうか。

だが、失業と貧困と社会
的排除にあえいできた「持
たざる者」は、グローバリ
ズムに対して「もう、た
さんだ」と声を挙げ闘いに
立ち上がった。メキシコ・
チアパスの密林で、パリや
シアトルやソウルの街頭
で、貧しい「南」の人々や
豊かな「北」の社会の底辺
に虐げられた「持たざる
者」は、公正と平等を求め
新自由主義政策とグローバ
リゼーションに対する闘い
の火の手をあげた。それが
また「火種」となって幾多
の労働者民衆の心に潜在し
ていた怒りに火が点けられ
た。こうして、今や反グロ
ーバリズム運動は、「失業
・貧困・排除」というグ
ローバリゼーションの凝縮
された矛盾と闘う「持た
ざる者」の「怒り・抵抗・
連帯」をモメント(拠り
所・契機)にして、国境を
越えて世界中に燎原の火の
ように燃え広がっているの
である。

資本主義・グローバリズ
ムに対して「怒り抵抗し連
帯」していかなくても闘い続
けようとする「持たざる
者」が存在する限り、また
搾取・抑圧からの「自由と
解放」を求めるプロレタリ
アがいる限り、「反帝・反
グローバリズム」の闘いの
火は、誰にも消せない。
「現代社会の下層」・底
辺で虐げられている「持た
ざる者」・プロレタリアの
深部に根を下ろし、その怒
りを源泉に「闘いの中に生
きていることを全身で感じ
る」(韓国の労働歌「鉄の
労働者」の一節)ことがで
きさえすれば、どんな困難
や試練があっても、「希望
と理想と情熱」の火を絶や
すことはない。

漆黒の闇の中でこそ星が
輝きを際立たせるように、
「希望」は、虐げられた民
衆の深い苦悶と怒りによっ
て研ぎ澄まされ、時代の暗
闇の中で輝きを極めるに違
いない。いくつもの抑圧と
いくつもの国境を越えて、
どこまでもラディカル(根
底的)に、どこまでもイン
ターナショナル(国際的)
に、「反帝・反グローバリ
ズム」の闘いの炎を燃やし
続けること、そうすること
ができれば、希望は取り戻
せる。世界は変えられる。
「深淵の灰の底」には、
埋もれた種火がある。それ
が、やがて一陣の風によっ
て燎原の火のごとく燃え上
がり、夜明け前の漆黒の闇
を焦がす時が来ることに、
私たちは希望を持ってい
る。

漆黒の闇に輝く「赤い
星」たちよ、全世界のプロ
レタリアの団結と解放の
「前衛」たれ!

(楨渡)

〈I〉政治組織総括と方針

(1) プント再建の礎を築く

全共の同盟員諸君、想い起してほしい。我が同盟は、1998年12月に同盟中央委員会再建第1回大会を、そして2000年12月には「第二の創建」を期した同盟第2回総会を開催、新生・共産同盟―同盟規約の全面改定、機関紙名の『蜂起』から『赤星』への改題―として出帆した。

(2) 組織総括

この10年、我々は「同盟再建」を目標に「党建設の戦列の立て直し」に全力を注いできた。前回(第2回)総会からの5年間に、旧指導部の脱走やそれに追いついてきた第一義の課題・任務は「同盟の立て直し・再建」であった。

2005年12月、我が共産主義者同盟(蜂起派)は、同盟第3回総会において、自由と解放を求めるプロレタリアの「前衛」として、真に戦う党―プロレタリア前衛党を創るために、プロレタリアの深部に根を下ろし、プロレタリアの団結を鍛え上げ、プロレタリアの解放運動である共産主義運動の再生を担い、時代を先導する共産同盟(プント)の「再建の礎」を築くこと、この闘いに挑むことをあらためて決意し固く意志統一する。同時に、我々は「プント再建」という悲願の達成を目指して、我が同盟自身を「戦う前衛組織」に変えていくという意識を強く持つ。共産主義に

生きる(生涯を賭ける)闘志と「団結心」を鍛え上げていくことを肝に銘じようではないか。

生きる(生涯を賭ける)闘志と「団結心」を鍛え上げていくことを肝に銘じようではないか。我々が同盟は、いまだに多くの克服すべき弱さ・欠点を抱え「再建途上」の困難に直面している。我々には「もう後がない」、だが我々は決して諦めたりはしない。プント再建に心血を注ぎ全力を尽くす。我々は「蜂起」から「赤星」へ、再建の道を歩む。我々は「蜂起」から「赤星」へ、再建の道を歩む。我々は「蜂起」から「赤星」へ、再建の道を歩む。

共産同盟第3回総会報告

反帝・反グローバリズムと新しい国際主義の旗を掲げて

新しい国際主義の旗を掲げて

この10年、我が同盟は、旧指導部の脱走やそれに追いついてきた第一義の課題・任務は「同盟の立て直し・再建」であった。

2005年12月、我が共産主義者同盟(蜂起派)は、同盟第3回総会において、自由と解放を求めるプロレタリアの「前衛」として、真に戦う党―プロレタリア前衛党を創るために、プロレタリアの深部に根を下ろし、プロレタリアの団結を鍛え上げ、プロレタリアの解放運動である共産主義運動の再生を担い、時代を先導する共産同盟(プント)の「再建の礎」を築くこと、この闘いに挑むことをあらためて決意し固く意志統一する。同時に、我々は「プント再建」という悲願の達成を目指して、我が同盟自身を「戦う前衛組織」に変えていくという意識を強く持つ。共産主義に

生きる(生涯を賭ける)闘志と「団結心」を鍛え上げていくことを肝に銘じようではないか。我々が同盟は、いまだに多くの克服すべき弱さ・欠点を抱え「再建途上」の困難に直面している。我々には「もう後がない」、だが我々は決して諦めたりはしない。プント再建に心血を注ぎ全力を尽くす。我々は「蜂起」から「赤星」へ、再建の道を歩む。我々は「蜂起」から「赤星」へ、再建の道を歩む。我々は「蜂起」から「赤星」へ、再建の道を歩む。

生きる(生涯を賭ける)闘志と「団結心」を鍛え上げていくことを肝に銘じようではないか。我々が同盟は、いまだに多くの克服すべき弱さ・欠点を抱え「再建途上」の困難に直面している。我々には「もう後がない」、だが我々は決して諦めたりはしない。プント再建に心血を注ぎ全力を尽くす。我々は「蜂起」から「赤星」へ、再建の道を歩む。我々は「蜂起」から「赤星」へ、再建の道を歩む。我々は「蜂起」から「赤星」へ、再建の道を歩む。

生きる(生涯を賭ける)闘志と「団結心」を鍛え上げていくことを肝に銘じようではないか。我々が同盟は、いまだに多くの克服すべき弱さ・欠点を抱え「再建途上」の困難に直面している。我々には「もう後がない」、だが我々は決して諦めたりはしない。プント再建に心血を注ぎ全力を尽くす。我々は「蜂起」から「赤星」へ、再建の道を歩む。我々は「蜂起」から「赤星」へ、再建の道を歩む。我々は「蜂起」から「赤星」へ、再建の道を歩む。

生きる(生涯を賭ける)闘志と「団結心」を鍛え上げていくことを肝に銘じようではないか。我々が同盟は、いまだに多くの克服すべき弱さ・欠点を抱え「再建途上」の困難に直面している。我々には「もう後がない」、だが我々は決して諦めたりはしない。プント再建に心血を注ぎ全力を尽くす。我々は「蜂起」から「赤星」へ、再建の道を歩む。我々は「蜂起」から「赤星」へ、再建の道を歩む。我々は「蜂起」から「赤星」へ、再建の道を歩む。

生きる(生涯を賭ける)闘志と「団結心」を鍛え上げていくことを肝に銘じようではないか。我々が同盟は、いまだに多くの克服すべき弱さ・欠点を抱え「再建途上」の困難に直面している。我々には「もう後がない」、だが我々は決して諦めたりはしない。プント再建に心血を注ぎ全力を尽くす。我々は「蜂起」から「赤星」へ、再建の道を歩む。我々は「蜂起」から「赤星」へ、再建の道を歩む。我々は「蜂起」から「赤星」へ、再建の道を歩む。

者」の国際連帯行動に象徴されるように、それまでの5年間と対比してみても画期的(エポック・メイキング)といえる新しい地平を――この国の反グローバリズム運動や社会運動において――切り拓いてきた。この意味を確信できる。グロバリズムとの対抗軸を明確な形で打ち出さない(それゆえ単にスロウガンだけにどまってしまう)左翼運動の低迷・立ち遅れが続いている中で、「持たざる者」の連帯行動の着実な前進(2003年組織建設の立ち遅れた現状をそれ「変革」の内実にな

者」の国際連帯行動に象徴されるように、それまでの5年間と対比してみても画期的(エポック・メイキング)といえる新しい地平を――この国の反グローバリズム運動や社会運動において――切り拓いてきた。この意味を確信できる。グロバリズムとの対抗軸を明確な形で打ち出さない(それゆえ単にスロウガンだけにどまってしまう)左翼運動の低迷・立ち遅れが続いている中で、「持たざる者」の連帯行動の着実な前進(2003年組織建設の立ち遅れた現状をそれ「変革」の内実にな

者」の国際連帯行動に象徴されるように、それまでの5年間と対比してみても画期的(エポック・メイキング)といえる新しい地平を――この国の反グローバリズム運動や社会運動において――切り拓いてきた。この意味を確信できる。グロバリズムとの対抗軸を明確な形で打ち出さない(それゆえ単にスロウガンだけにどまってしまう)左翼運動の低迷・立ち遅れが続いている中で、「持たざる者」の連帯行動の着実な前進(2003年組織建設の立ち遅れた現状をそれ「変革」の内実にな

者」の国際連帯行動に象徴されるように、それまでの5年間と対比してみても画期的(エポック・メイキング)といえる新しい地平を――この国の反グローバリズム運動や社会運動において――切り拓いてきた。この意味を確信できる。グロバリズムとの対抗軸を明確な形で打ち出さない(それゆえ単にスロウガンだけにどまってしまう)左翼運動の低迷・立ち遅れが続いている中で、「持たざる者」の連帯行動の着実な前進(2003年組織建設の立ち遅れた現状をそれ「変革」の内実にな

者」の国際連帯行動に象徴されるように、それまでの5年間と対比してみても画期的(エポック・メイキング)といえる新しい地平を――この国の反グローバリズム運動や社会運動において――切り拓いてきた。この意味を確信できる。グロバリズムとの対抗軸を明確な形で打ち出さない(それゆえ単にスロウガンだけにどまってしまう)左翼運動の低迷・立ち遅れが続いている中で、「持たざる者」の連帯行動の着実な前進(2003年組織建設の立ち遅れた現状をそれ「変革」の内実にな

者」の国際連帯行動に象徴されるように、それまでの5年間と対比してみても画期的(エポック・メイキング)といえる新しい地平を――この国の反グローバリズム運動や社会運動において――切り拓いてきた。この意味を確信できる。グロバリズムとの対抗軸を明確な形で打ち出さない(それゆえ単にスロウガンだけにどまってしまう)左翼運動の低迷・立ち遅れが続いている中で、「持たざる者」の連帯行動の着実な前進(2003年組織建設の立ち遅れた現状をそれ「変革」の内実にな

〈II〉反帝・反グローバリズム

(1) 敗北から学び奪われた希望を取り戻せ

聞いとは、幾多の「失敗の山」を築くことと言われ、それゆえ、失敗や手痛い敗北を喫したる過ちを犯すという「代償」を払うことによって苦しみ悩み、自己の立ち遅れや弱さ・欠点を知り、その確証を通じて苦い教訓を学ばねばならない。つまり、自分自身を変えなければならぬ。変えたいと苦悩すること、それ自体に「弱さを強さに」「敗北を勝利に」「反転させる」ことができる契機(モーメント)が得るのである。長く険しい革命への試練の道さへならなければならぬ革命的実践活動―共産主義運動においては、あえて苦境に身を置き試行錯誤を重ね四苦八苦しながら、時にはつまずき迷走し自分の愚かさや苦しみをわが思想的な試練を通して初めて、旧殻を破り自己の現状を変えることが可能になるのである。真に闘いに勝利するためには、自己の立ち遅れた現状を自覚し、それを打破する可能性をグローバルなコンテクスト(文脈)で考察することが必要だ。独善や閉鎖直りの論外だが、自己を相対化しようとする守旧的発想やサクル根性、利己的保身、自己変革(組織変革)を妨げる日和見主義に転化する。

聞いとは、幾多の「失敗の山」を築くことと言われ、それゆえ、失敗や手痛い敗北を喫したる過ちを犯すという「代償」を払うことによって苦しみ悩み、自己の立ち遅れや弱さ・欠点を知り、その確証を通じて苦い教訓を学ばねばならない。つまり、自分自身を変えなければならぬ。変えたいと苦悩すること、それ自体に「弱さを強さに」「敗北を勝利に」「反転させる」ことができる契機(モーメント)が得るのである。長く険しい革命への試練の道さへならなければならぬ革命的実践活動―共産主義運動においては、あえて苦境に身を置き試行錯誤を重ね四苦八苦しながら、時にはつまずき迷走し自分の愚かさや苦しみをわが思想的な試練を通して初めて、旧殻を破り自己の現状を変えることが可能になるのである。真に闘いに勝利するためには、自己の立ち遅れた現状を自覚し、それを打破する可能性をグローバルなコンテクスト(文脈)で考察することが必要だ。独善や閉鎖直りの論外だが、自己を相対化しようとする守旧的発想やサクル根性、利己的保身、自己変革(組織変革)を妨げる日和見主義に転化する。

聞いとは、幾多の「失敗の山」を築くことと言われ、それゆえ、失敗や手痛い敗北を喫したる過ちを犯すという「代償」を払うことによって苦しみ悩み、自己の立ち遅れや弱さ・欠点を知り、その確証を通じて苦い教訓を学ばねばならない。つまり、自分自身を変えなければならぬ。変えたいと苦悩すること、それ自体に「弱さを強さに」「敗北を勝利に」「反転させる」ことができる契機(モーメント)が得るのである。長く険しい革命への試練の道さへならなければならぬ革命的実践活動―共産主義運動においては、あえて苦境に身を置き試行錯誤を重ね四苦八苦しながら、時にはつまずき迷走し自分の愚かさや苦しみをわが思想的な試練を通して初めて、旧殻を破り自己の現状を変えることが可能になるのである。真に闘いに勝利するためには、自己の立ち遅れた現状を自覚し、それを打破する可能性をグローバルなコンテクスト(文脈)で考察することが必要だ。独善や閉鎖直りの論外だが、自己を相対化しようとする守旧的発想やサクル根性、利己的保身、自己変革(組織変革)を妨げる日和見主義に転化する。

聞いとは、幾多の「失敗の山」を築くことと言われ、それゆえ、失敗や手痛い敗北を喫したる過ちを犯すという「代償」を払うことによって苦しみ悩み、自己の立ち遅れや弱さ・欠点を知り、その確証を通じて苦い教訓を学ばねばならない。つまり、自分自身を変えなければならぬ。変えたいと苦悩すること、それ自体に「弱さを強さに」「敗北を勝利に」「反転させる」ことができる契機(モーメント)が得るのである。長く険しい革命への試練の道さへならなければならぬ革命的実践活動―共産主義運動においては、あえて苦境に身を置き試行錯誤を重ね四苦八苦しながら、時にはつまずき迷走し自分の愚かさや苦しみをわが思想的な試練を通して初めて、旧殻を破り自己の現状を変えることが可能になるのである。真に闘いに勝利するためには、自己の立ち遅れた現状を自覚し、それを打破する可能性をグローバルなコンテクスト(文脈)で考察することが必要だ。独善や閉鎖直りの論外だが、自己を相対化しようとする守旧的発想やサクル根性、利己的保身、自己変革(組織変革)を妨げる日和見主義に転化する。

聞いとは、幾多の「失敗の山」を築くことと言われ、それゆえ、失敗や手痛い敗北を喫したる過ちを犯すという「代償」を払うことによって苦しみ悩み、自己の立ち遅れや弱さ・欠点を知り、その確証を通じて苦い教訓を学ばねばならない。つまり、自分自身を変えなければならぬ。変えたいと苦悩すること、それ自体に「弱さを強さに」「敗北を勝利に」「反転させる」ことができる契機(モーメント)が得るのである。長く険しい革命への試練の道さへならなければならぬ革命的実践活動―共産主義運動においては、あえて苦境に身を置き試行錯誤を重ね四苦八苦しながら、時にはつまずき迷走し自分の愚かさや苦しみをわが思想的な試練を通して初めて、旧殻を破り自己の現状を変えることが可能になるのである。真に闘いに勝利のためには、自己の立ち遅れた現状を自覚し、それを打破する可能性をグローバルなコンテクスト(文脈)で考察することが必要だ。独善や閉鎖直りの論外だが、自己を相対化しようとする守旧的発想やサクル根性、利己的保身、自己変革(組織変革)を妨げる日和見主義に転化する。

聞いとは、幾多の「失敗の山」を築くことと言われ、それゆえ、失敗や手痛い敗北を喫したる過ちを犯すという「代償」を払うことによって苦しみ悩み、自己の立ち遅れや弱さ・欠点を知り、その確証を通じて苦い教訓を学ばねばならない。つまり、自分自身を変えなければならぬ。変えたいと苦悩すること、それ自体に「弱さを強さに」「敗北を勝利に」「反転させる」ことができる契機(モーメント)が得るのである。長く険しい革命への試練の道さへならなければならぬ革命的実践活動―共産主義運動においては、あえて苦境に身を置き試行錯誤を重ね四苦八苦しながら、時にはつまずき迷走し自分の愚かさや苦しみをわが思想的な試練を通して初めて、旧殻を破り自己の現状を変えることが可能になるのである。真に闘いに勝利のためには、自己の立ち遅れた現状を自覚し、それを打破する可能性をグローバルなコンテクスト(文脈)で考察することが必要だ。独善や閉鎖直りの論外だが、自己を相対化しようとする守旧的発想やサクル根性、利己的保身、自己変革(組織変革)を妨げる日和見主義に転化する。

抑圧に抵抗する民衆の心の中ですらも濁ることはない。それは今でも、帝國主義とグローバリズムに抗う全世界のプロレタリア

「持たざる者」の心に深く刻まれ記憶され決して忘れ去られることはない。虐げられし者の解放のために、命尽きるまで闘った彼ら彼女らの情熱は、理想を求め希望を取り戻そうと戦う「持たざる者」の「怒り、抵抗し、連帯する」行動原理になって、今も生きていくのだ。

資本主義・グローバリズムの支配者は、虐げられた民衆の心の奥底に潜存する怒りが、いつ勢いよく燃え上がり時代の闇を焦がすことになるかもしれないことを恐れている。灰に埋もれた奥底でつらつら続ける小さな火種を恐れるように、もっと明確に言うところ、彼ら支配する者は、グローバリゼーションがもたらす失業・貧困・排除に苦しんでいる「持たざる者」が、世界中で怒りをたぎらせ抵抗し

を恐れているのだ。資本主義・グローバリズムが日々増大させている貧困や犠牲が、その多大な苦しみを負わされている民衆・「持たざる者」の中に「怒り・抵抗・連帯」を生み出し、グローバルなコンテクスト(文脈)で考察することが必要だ。独善や閉鎖直りの論外だが、自己を相対化しようとする守旧的発想やサクル根性、利己的保身、自己変革(組織変革)を妨げる日和見主義に転化する。

「カウンター・パワー」をも拡大させずにはおかない、という現実そのものを恐れ安閑としてはいられないのである。

(5面へ)

持たざる者の反グローバリズム行動の前進を

11・3―釜山APEC―香港WTO

国際連帯の地平と飛躍

11・3「持たざる者」の国際連帯行動から釜山APEC
香港WTOを闘う

11・3「持たざる者」の国際連帯行動は東京で200名の結集で勝ち取り、11・6関西での初の集会も成功した。国境を越えた連帯を自指す取り組みは、11月反APEC釜山行動から12月反WTO香港行動へ、さらには火を噴いたフランスの移民暴動に呼応した闘い(11・14フランス大使館への抗議行動)と、12・3討論集会の開催へと、この2カ月間に着実に前進した。

反APEC釜山行動は、11月18日に3万人の大デモが戒厳体制を打ち破って勝ち取られた。それに先立つ17日には、釜山大学で開催されたワークショップ「APECと貧困、韓国政府の貧民弾圧」の分科会に、日本のゲスト報告者として、『社会的労働運動で路上1000人を救う』のテーマで、寄せ場「飯場」労働現場を貫く闘いのテーマで、日本の日雇・野宿者運動の現状と地平を提起した。

参加者は全国露大商連を中心に70名余、釜ヶ崎パトリオールのメンバーも合流した。全露連委員長を司会に、貧しい者をより貧しくするAPECを撃つ貧困者の社会的連帯に向けた提起と討論が活発になされた。全国貧民連合からは、APECに際しての露大商、撤去民(公共地の占拠者)と、日雇い建設労働者、野宿者への排除攻撃の実態が報告され、ソウルで始まった野宿者運動の代表からはこの間の闘いの経緯が詳細に提起された。

野宿者には生活物資を保管する上でコインロッカーが不可欠となっているが、これが事前通告なしで使用禁止になったこと。そこで被害者を擁起し、荷物を取り戻すために役人の間をタライ回しにされながらも闘い抜き、APECに際しては釜山警察署の前で、「誰のためのAPECか」とプラカードを掲げて抗議した。94年2月の新宿における野宿者運動が一方的な荷物撤去に抗議して荷物を取り返す行動を呼びかけることから始まったのと共通する。

釜山では、釜パトのメンバーとともに、撤去民のコミュニティ「水の多い里」を訪ね、当事者の人たちの交流の場に参加することができた。その中で、民主労総・建築土木組合協議会のキム・ミレさんとの出会いと交流は意義のあるものであった。彼女は、ドキュメンタリー映画『土方(ノカタチ)』を手がけ、2年前には釜ヶ崎などの現場にも訪れ、韓日の労働者の闘いを追って映画に仕上げたのだった。当日は、ソウルで

の交流・論議を約束して別れることができた。

1・15山谷から新たな一歩へ!

「持たざる者」の国際連帯行動の真の発展を勝ち取るためには、前進した地平を打ち固める組織化が不可欠である。鮮明なメッセージをよりインパクトのあるものとするべく、打ち固めが問われているのだ。

韓国民主労総の戦闘性と苦闘の軌跡を見るまでもなく、アメリカ、フランス、ドイツなどでも明らかになった労働運動としての労働運動がなぜ日本の地で沸き起らないのかを問わねばならない。新自由主義グローバル化の進行の中、最も矛盾のしわ寄せを受ける「持たざる者」が、一歩前に出るしかない。

日雇全協を主導した同志山岡強一が虐殺されて20年を迎える時、今こそ「持たざる者」の国際連帯を打ち固めるための跳躍台が必要なのだ。日雇全協創建時から、流動的かつ労働者にこだわり続けた闘いの歴史的地平の上で、行動しながら議論する作風を生かし、労働者の実相(野宿と飯場・直行)に即しながら階級内階層の封じ込めを打ち破り、社会運動と結合した労働運動の創成・再建に向けて、行動を重ね合わせ、議論しつづけていくことが求められている。

12月3日「持たざる者」の国際連帯行動実行委員会呼びかけた討論・交流集会在釜山APECフォーラム「APECと貧困」を中心に報告と提起。続いて本日のメイと提起。続いて本日のメイと提起。続いて本日のメイと提起。

12月3日「持たざる者」の国際連帯行動実行委員会呼びかけた討論・交流集会在釜山APECフォーラム「APECと貧困」を中心に報告と提起。続いて本日のメイと提起。続いて本日のメイと提起。

2005-2006年 田川、そして上野公園を結ぶ団結を打ち固め、「反排斥」と「仕事よこせ」の闘いを前進させていく重要な節目となる。集会では、争い支援事業」の進行とともに議論/反失業の基調が提げられ、釜ヶ崎のじれん、争い田川両岸における攻防は、団連、北部共闘、墨田ネット、フリーター労組、立川テント(メッセーシ)、山野宮、現場攻防と弾圧の中で岡さん20カ年の備えを準備する。2・4集会実行委からきた。11月以降も、工事をそれぞれアピールが寄せられた。山谷越年・越冬闘争から、1・15全国から玉姫タワー前を拠点しながら隅公園に結集を勝ち取る。

2005-2006年 田川、そして上野公園を結ぶ団結を打ち固め、「反排斥」と「仕事よこせ」の闘いを前進させていく重要な節目となる。集会では、争い支援事業」の進行とともに議論/反失業の基調が提げられ、釜ヶ崎のじれん、争い田川両岸における攻防は、団連、北部共闘、墨田ネット、フリーター労組、立川テント(メッセーシ)、山野宮、現場攻防と弾圧の中で岡さん20カ年の備えを準備する。2・4集会実行委からきた。11月以降も、工事をそれぞれアピールが寄せられた。山谷越年・越冬闘争から、1・15全国から玉姫タワー前を拠点しながら隅公園に結集を勝ち取る。

12月3日「持たざる者」の国際連帯行動実行委員会呼びかけた討論・交流集会在釜山APECフォーラム「APECと貧困」を中心に報告と提起。続いて本日のメイと提起。続いて本日のメイと提起。

12月3日「持たざる者」の国際連帯行動実行委員会呼びかけた討論・交流集会在釜山APECフォーラム「APECと貧困」を中心に報告と提起。続いて本日のメイと提起。続いて本日のメイと提起。

2005-2006年 田川、そして上野公園を結ぶ団結を打ち固め、「反排斥」と「仕事よこせ」の闘いを前進させていく重要な節目となる。集会では、争い支援事業」の進行とともに議論/反失業の基調が提げられ、釜ヶ崎のじれん、争い田川両岸における攻防は、団連、北部共闘、墨田ネット、フリーター労組、立川テント(メッセーシ)、山野宮、現場攻防と弾圧の中で岡さん20カ年の備えを準備する。2・4集会実行委からきた。11月以降も、工事をそれぞれアピールが寄せられた。山谷越年・越冬闘争から、1・15全国から玉姫タワー前を拠点しながら隅公園に結集を勝ち取る。

2005-2006年 田川、そして上野公園を結ぶ団結を打ち固め、「反排斥」と「仕事よこせ」の闘いを前進させていく重要な節目となる。集会では、争い支援事業」の進行とともに議論/反失業の基調が提げられ、釜ヶ崎のじれん、争い田川両岸における攻防は、団連、北部共闘、墨田ネット、フリーター労組、立川テント(メッセーシ)、山野宮、現場攻防と弾圧の中で岡さん20カ年の備えを準備する。2・4集会実行委からきた。11月以降も、工事をそれぞれアピールが寄せられた。山谷越年・越冬闘争から、1・15全国から玉姫タワー前を拠点しながら隅公園に結集を勝ち取る。

2005-2006年 田川、そして上野公園を結ぶ団結を打ち固め、「反排斥」と「仕事よこせ」の闘いを前進させていく重要な節目となる。集会では、争い支援事業」の進行とともに議論/反失業の基調が提げられ、釜ヶ崎のじれん、争い田川両岸における攻防は、団連、北部共闘、墨田ネット、フリーター労組、立川テント(メッセーシ)、山野宮、現場攻防と弾圧の中で岡さん20カ年の備えを準備する。2・4集会実行委からきた。11月以降も、工事をそれぞれアピールが寄せられた。山谷越年・越冬闘争から、1・15全国から玉姫タワー前を拠点しながら隅公園に結集を勝ち取る。

2005-2006年 田川、そして上野公園を結ぶ団結を打ち固め、「反排斥」と「仕事よこせ」の闘いを前進させていく重要な節目となる。集会では、争い支援事業」の進行とともに議論/反失業の基調が提げられ、釜ヶ崎のじれん、争い田川両岸における攻防は、団連、北部共闘、墨田ネット、フリーター労組、立川テント(メッセーシ)、山野宮、現場攻防と弾圧の中で岡さん20カ年の備えを準備する。2・4集会実行委からきた。11月以降も、工事をそれぞれアピールが寄せられた。山谷越年・越冬闘争から、1・15全国から玉姫タワー前を拠点しながら隅公園に結集を勝ち取る。

2005-2006年 田川、そして上野公園を結ぶ団結を打ち固め、「反排斥」と「仕事よこせ」の闘いを前進させていく重要な節目となる。集会では、争い支援事業」の進行とともに議論/反失業の基調が提げられ、釜ヶ崎のじれん、争い田川両岸における攻防は、団連、北部共闘、墨田ネット、フリーター労組、立川テント(メッセーシ)、山野宮、現場攻防と弾圧の中で岡さん20カ年の備えを準備する。2・4集会実行委からきた。11月以降も、工事をそれぞれアピールが寄せられた。山谷越年・越冬闘争から、1・15全国から玉姫タワー前を拠点しながら隅公園に結集を勝ち取る。

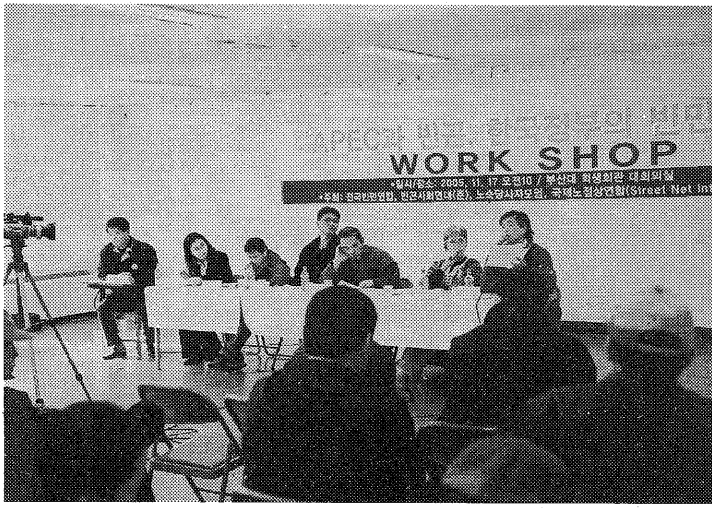
2005-2006年 田川、そして上野公園を結ぶ団結を打ち固め、「反排斥」と「仕事よこせ」の闘いを前進させていく重要な節目となる。集会では、争い支援事業」の進行とともに議論/反失業の基調が提げられ、釜ヶ崎のじれん、争い田川両岸における攻防は、団連、北部共闘、墨田ネット、フリーター労組、立川テント(メッセーシ)、山野宮、現場攻防と弾圧の中で岡さん20カ年の備えを準備する。2・4集会実行委からきた。11月以降も、工事をそれぞれアピールが寄せられた。山谷越年・越冬闘争から、1・15全国から玉姫タワー前を拠点しながら隅公園に結集を勝ち取る。

2005-2006年 田川、そして上野公園を結ぶ団結を打ち固め、「反排斥」と「仕事よこせ」の闘いを前進させていく重要な節目となる。集会では、争い支援事業」の進行とともに議論/反失業の基調が提げられ、釜ヶ崎のじれん、争い田川両岸における攻防は、団連、北部共闘、墨田ネット、フリーター労組、立川テント(メッセーシ)、山野宮、現場攻防と弾圧の中で岡さん20カ年の備えを準備する。2・4集会実行委からきた。11月以降も、工事をそれぞれアピールが寄せられた。山谷越年・越冬闘争から、1・15全国から玉姫タワー前を拠点しながら隅公園に結集を勝ち取る。

2005-2006年 田川、そして上野公園を結ぶ団結を打ち固め、「反排斥」と「仕事よこせ」の闘いを前進させていく重要な節目となる。集会では、争い支援事業」の進行とともに議論/反失業の基調が提げられ、釜ヶ崎のじれん、争い田川両岸における攻防は、団連、北部共闘、墨田ネット、フリーター労組、立川テント(メッセーシ)、山野宮、現場攻防と弾圧の中で岡さん20カ年の備えを準備する。2・4集会実行委からきた。11月以降も、工事をそれぞれアピールが寄せられた。山谷越年・越冬闘争から、1・15全国から玉姫タワー前を拠点しながら隅公園に結集を勝ち取る。

2005-2006年 田川、そして上野公園を結ぶ団結を打ち固め、「反排斥」と「仕事よこせ」の闘いを前進させていく重要な節目となる。集会では、争い支援事業」の進行とともに議論/反失業の基調が提げられ、釜ヶ崎のじれん、争い田川両岸における攻防は、団連、北部共闘、墨田ネット、フリーター労組、立川テント(メッセーシ)、山野宮、現場攻防と弾圧の中で岡さん20カ年の備えを準備する。2・4集会実行委からきた。11月以降も、工事をそれぞれアピールが寄せられた。山谷越年・越冬闘争から、1・15全国から玉姫タワー前を拠点しながら隅公園に結集を勝ち取る。

2005-2006年 田川、そして上野公園を結ぶ団結を打ち固め、「反排斥」と「仕事よこせ」の闘いを前進させていく重要な節目となる。集会では、争い支援事業」の進行とともに議論/反失業の基調が提げられ、釜ヶ崎のじれん、争い田川両岸における攻防は、団連、北部共闘、墨田ネット、フリーター労組、立川テント(メッセーシ)、山野宮、現場攻防と弾圧の中で岡さん20カ年の備えを準備する。2・4集会実行委からきた。11月以降も、工事をそれぞれアピールが寄せられた。山谷越年・越冬闘争から、1・15全国から玉姫タワー前を拠点しながら隅公園に結集を勝ち取る。



11月17日釜山大学。ワークショップで発言。

11月17日釜山大学。ワークショップで発言。

11月17日釜山大学。ワークショップで発言。

11月17日釜山大学。ワークショップで発言。

11月17日釜山大学。ワークショップで発言。

11月17日釜山大学。ワークショップで発言。

11月17日釜山大学。ワークショップで発言。

11月17日釜山大学。ワークショップで発言。

11月17日釜山大学。ワークショップで発言。

12・3「持たざる者」討論集會

フランス暴動と排除を問う

12月3日「持たざる者」の国際連帯行動実行委員会呼びかけた討論・交流集会在釜山APECフォーラム「APECと貧困」を中心に報告と提起。続いて本日のメイと提起。続いて本日のメイと提起。

越年・越冬闘争を打ち抜き

1・15全国から山谷へ

2005-2006年 田川、そして上野公園を結ぶ団結を打ち固め、「反排斥」と「仕事よこせ」の闘いを前進させていく重要な節目となる。集会では、争い支援事業」の進行とともに議論/反失業の基調が提げられ、釜ヶ崎のじれん、争い田川両岸における攻防は、団連、北部共闘、墨田ネット、フリーター労組、立川テント(メッセーシ)、山野宮、現場攻防と弾圧の中で岡さん20カ年の備えを準備する。2・4集会実行委からきた。11月以降も、工事をそれぞれアピールが寄せられた。山谷越年・越冬闘争から、1・15全国から玉姫タワー前を拠点しながら隅公園に結集を勝ち取る。

WTO 反対闘争に千人以上拘束

香港警察の大弾圧を許すな!

香港で開催されたWTO 議論集会を開いた参加者を包囲し、拘束・連行したのだ。以下抗議声明から抜粋する。

2005-2006年

山谷越年・越冬闘争

12月28日(水)〜1月4日(水) 朝城北労働福祉センター前

1・15日雇全協

反失業総決起集會

1月15日(日) 午前10時 山谷玉姫公園 (集会后デモ)

12月22日には、在大阪中国領事館に対して14名の即時釈放を求める抗議・申し入れ行動が闘われた。14名は香港市民の喝采と支持を浴びてきた。私たちはまずこれらの一連の反WTO行動を断固支持する。新自由主義グローバル化によって拡大する「棄民化」を強いられた社会の底辺で日々困窮するこれらの人々の立ち上がり、国境を越えた結びつきによって必ず希望は取り戻されるだろう。私たちがいかなる弾圧をも跳ねのけて前進する声を上げていこう。

12月22日には、在大阪中国領事館に対して14名の即時釈放を求める抗議・申し入れ行動が闘われた。14名は香港市民の喝采と支持を浴びてきた。私たちはまずこれらの一連の反WTO行動を断固支持する。新自由主義グローバル化によって拡大する「棄民化」を強いられた社会の底辺で日々困窮するこれらの人々の立ち上がり、国境を越えた結びつきによって必ず希望は取り戻されるだろう。私たちがいかなる弾圧をも跳ねのけて前進する声を上げていこう。

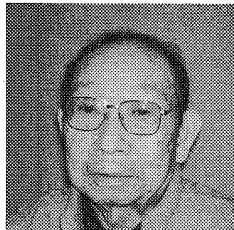
三里塚 反対同盟と共に北延伸阻止へ

2005年の三里塚闘争は、暫定滑走路の北延伸攻撃に対して全面的に対決する闘争宣言を發した。暫定滑走路の欠陥を追い詰められた国土交通省とNAA(成田空港会社)は、南延伸(用地買収)が破綻したことで、北延伸を決定。これは、07年の株式上場と羽田国際化の流れの中で、空港をめぐる国家競争に乗り遅れまいと、暫定滑走路の欠陥を補正する目的で強行されたものだ。この間、官製談合事件では、NAAの役員が、空港建設を食い物に私服を肥やしているという実態も明らかになった。

この北延伸に伴い、「東峰の森」破壊と成田クリンパーク(一般廃棄物最終処分場)の違法転用も目論まれている。クリンパークの焼却灰には大量のダイオキシンが含まれているため、転用には大量の土壌の汚染防止のための厳格な安全基準が定められている。5、6年の検査期間が必要だとされる。しかしこれでは目標の2009年の完成には間に合わないため、土をかぶせるだけで空港用地に転用してしまおうと画策されているというのだ。まさに怒るべき環境破壊の暴挙である。

反対同盟は、北延伸をめぐる問題を広く訴えるべく記者会見を行い、公開質問状を叩きつけ、現地調査を実施し、周辺住民に訴えながら連月の現地闘争を取り組んできた。11月20日にはデモ終了後、全員でクリンパークに向いて抗議の声を上げた。

また天神峰現闘本部裁判は12月15日には、第9回口頭弁論が行われ、最大の争点である地上権をめぐる山場を迎えている。こうした中で2006年は北延伸をめぐる攻防が激化するだろう。反対同盟40年の地平と団結で、26全国闘争に決起しよう!



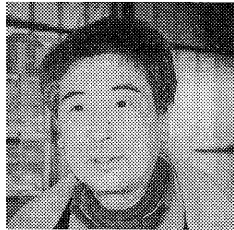
北原 鈺治

反対同盟 事務局長

全国の皆さん、空港会社は8月に暫定滑走路の北延伸を決定し、10月には新たな施設計画を發表しました。この計画は2500メートル滑走路の完成をうたいながら、その実は危機を増大させるものです。

反対同盟は、2つの点を焦点に攻撃を開始しています。一つは新たに進入灯を建設するところである地点にある成田クリンパークの問題です。法に定められた通りに移転させれば、これだけで5年から7年かかるといわれています。違法な形でそのままのままで進入灯をつくるというのです。成田市は、我々の追及に「協議中だ」と全く答えようとしません。

もう一つは、東峰住民との合意が残ることになって「東峰の森」を伐採し、誘導路を造ろうとしていることです。防風林・防音林として、また入会地にも利用されてきた森の伐採は許すことができません。反対同盟は、10月の全国集会を引き継ぎ、11月、12月と現地デモを闘っています。



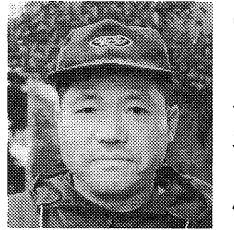
萩原 進

敷地内東峰

2005年は、暫定滑走路阻止を焦点とした闘いがあった。8月に決定した北延伸は、敵にしてみれば2500メートルの形だけを整える事ではない。延伸決定をもって南側の住民の叩きだしを狙い、北側にも南側にも延伸したいというのが本音だ。この決定で、むしろ怒りがふつふつ湧いてくる。東峰の森を伐採しての誘導路建設など絶対反対だ。

暫定開港以来、日常生活を脅かす騒音は続いて、24時間の監視体制や検問などの露骨な弾圧が繰り返されている。闘う者への弾圧は何ひとつ変わることはない。しかし、一坪裁判や現闘本部裁判、市東さんの農地取り上げ攻撃などは、追いつめられている。

40年を貫く反戦の岩・三里塚の旗が、戦争攻撃が強まる状況の中で大きくはたれていることは重要な。小泉政権が先の選挙で勝利したといってもあれ以上ではない。増税や労働者への弱



市東 孝雄

敷地内天神峰

三里塚を闘う全国の皆さんに年頭のアピールを送ります。

2005年は、暫定滑走路延伸阻止を掲げて闘い抜きました。北延伸を決定するしかなかった空港・国交省のほうを追いつめられていることは明らかです。進入灯建設のための成田クリンパークの移転や、誘導路建設のための東峰の森伐採など、容易にできるものではありません。

一坪共有地の取り上げ、現闘本部撤去、私の農地取り上げ、東峰住民の叩きだしなど、さまざまに攻撃をかけてきていますが、全ての局面で反対同盟の粘り強

1・8 2006年新年デモと旗開き

- 1月8日(日)
- 新年デモ 午前10時
- 市東さん方南側の開拓組合道路集合
- 団結旗開き 午後1時 成田市内

主催・三里塚芝山連合空港反対同盟

沖縄 辺野古沖着工を阻止した力で 新たな反基地の闘いを

12月18日、「辺野古沖・ボーリング調査を阻止したぞ!」米軍再編 辺野古案もゆるさないぞ! 12・18集会

12月18日、辺野古沖・ボーリング調査を阻止したぞ! 米軍再編 辺野古案もゆるさないぞ! 12・18集会。約120名の参加で勝ち取られた(主催・辺野古沖の海上基地建設阻止委員会)。

この10月、日米両政府は「在日米軍再編」の中間報告を發表したが、その内容は沖繩の「負担軽減」として、新基地建設を断念に追い込んだ。昨年6月以降は沖繩の闘いに連帯するべく、沖繩・一坪反戦地主会関東ブロックの呼びかけで新たな沖繩との連帯の絆を強め、

な実行委員会がつくられ、今日にいたるまで毎週(月曜)防衛庁行動が続けられ、さらに集会・デモ・街頭宣伝、対外務省・防衛庁交渉、着工業者への抗議・申し入れなどの行動が多様に展開されてきた。

この10月、日米両政府は「在日米軍再編」の中間報告を發表したが、その内容は沖繩の「負担軽減」として、新基地建設を断念に追い込んだ。昨年6月以降は沖繩の闘いに連帯するべく、沖繩・一坪反戦地主会関東ブロックの呼びかけで新たな沖繩との連帯の絆を強め、

皆の知恵の結晶であり着工にあたって業者もやる気を喪失していった。さらに私たちの闘いが広範に支持されたのは、一つはジュゴン(海を埋め立てる環境破壊への怒り)、もう一つは米軍への沖繩大への墜落が沖繩の世論を動かした、反基地の力が高まったことだ。今回の米軍再編と基地強化に對しては、第二の「島ぐるみ闘争」の決意でぞむ。

新たな「県民投票」も提起したい。平和市民連絡会で意見広告も準備中だ。辺野古沖を阻止した力と闘いを共に闘い抜く意志を打ち固めるものとして勝ち取られた。

集会に先立って、辺野古の闘いを再編集したビデオ上映。開会のあいさつを、沖繩・一坪反戦地主会関東ブロックから「辺野古沖を阻止した力と闘いを共に闘い抜く意志を打ち固めるものとして勝ち取られた。」

12月17日、共謀罪を永久に葬り去る総決起集会が、渋谷労働福祉会館にて210名の参加で勝ち取られた(主催・破防法・相対法に反対する共同行動)。

共謀罪をめぐる攻防は、来春の通常国会が文字通りの廃案か(修正含み)の制定かの正念場となる。本集会は、実質審議に入った2度の国会(05年)で成立を阻止した勝利の地を共有し、通常国会成立を断じてきた方針が提起された。さらに警備法改悪やテロ対策法なども動き始めている。新たな治安法策動を許さず共謀罪を永久に葬り去れ!

2006年を、北延伸阻止、現闘本部裁判勝利、そして空港滑走路への大きな一歩を踏み出す年にしよう。改選にまで及ぼうとする戦争攻撃と対決し、全国の反戦闘争や全世界で弾圧に抗して闘う人々と反対同盟は連帯して闘います。全国から3・26集会への結果を呼びかけます。

12月17日、共謀罪を永久に葬り去る総決起集会が、渋谷労働福祉会館にて210名の参加で勝ち取られた(主催・破防法・相対法に反対する共同行動)。

共謀罪をめぐる攻防は、来春の通常国会が文字通りの廃案か(修正含み)の制定かの正念場となる。本集会は、実質審議に入った2度の国会(05年)で成立を阻止した勝利の地を共有し、通常国会成立を断じてきた方針が提起された。さらに警備法改悪やテロ対策法なども動き始めている。新たな治安法策動を許さず共謀罪を永久に葬り去れ!

反弾圧 共謀罪を永久に葬り去れ 12・17総決起集会

12月17日、共謀罪を永久に葬り去る総決起集会が、渋谷労働福祉会館にて210名の参加で勝ち取られた(主催・破防法・相対法に反対する共同行動)。

共謀罪をめぐる攻防は、来春の通常国会が文字通りの廃案か(修正含み)の制定かの正念場となる。本集会は、実質審議に入った2度の国会(05年)で成立を阻止した勝利の地を共有し、通常国会成立を断じてきた方針が提起された。さらに警備法改悪やテロ対策法なども動き始めている。新たな治安法策動を許さず共謀罪を永久に葬り去れ!



12・18集会。写真を手に講演する女次富浩さん。

冬季カンパを訴える 共産主義者同盟 (蜂起派)

すべての同志・友人の皆さん、読者の皆さん、全世界で燃え広がる戦争とテロ・パレシオンに抗する闘いの中で、我々はこの10月から12月にかけて、パレスチナ訪問、「持たざる者」の国際連帯行動、釜山APEC反対闘争、香港WTO反対闘争に取り組んできました。我々は、パレスチナ・韓国民衆の不屈の闘いと連帯し、「持たざる者」の団結と大衆行動を押し広げ、テロ再建へ向かって前進する決意です。冬季カンパの集金をお願いします。